



# アスンシオン通信

シーズン2

日付: 2025 年 8月26日 no.33

発行者: 田邊紘起

Hola a todos ! Que tal? Como están?

夏休みもあと少しになりました。気持ちにゆとりをもって2学期がスタートできるよう、計画的に準備を進めましょう。

さて、私たち家族は先日まで日本に一時帰国していて、実は田幸小学校にも寄ったのですが、上久保先生と校長先生以外、みな初めてお会いする先生方だったのでちょっとドキドキしました。知っている先生が少なくなって少し寂しい気持ちになりました

が、新しい先生方が加わって新鮮な感じもしました。また3月末に帰国した時がどうなるか楽しみです。

今回の通信は、日本に一時帰国して感じたことを5点にしぼってお伝えします。

## 1.到着や出発の時刻が正確な交通機関

「到着が2分遅れて、ご迷惑をおかけしました。」

日本に帰った時電車に乗ったのですが、予定時刻より少し遅れたため、このようなアナウンスが流れました。数分の遅れでもお詫びのアナウンスをする礼儀正しさに「日本」を感じました。海外では飛行機が何時間も遅れることが時々ありますが、「遅れます。登場ゲートが変わります。」というアナウンスはあっても、「ご迷惑をおかけします。」といった利用者に心配りをするアナウンスはほとんどありません。また日本のレストランでは、注文して10分後に「大変お待たせいたしました。」という言葉とともに料理が運ばれてきました。パラグアイでは長いこと待ってやっと料理が出てきた時でも「Que aproveche! (ケ アプロベージェ：めしあがれ！楽しんで!）」という言葉をかけてくれるくらいです。待ち時間ものんびり会話を楽しんで気長に待っているパラグアイと日本では、時間に対する感覚の違いを感じます。

## 2.相手への丁寧な言葉づかい

前の話と似ていますが、日本のお店はお客に対する言葉づかいがとても丁寧だと思いました。店員さんも、乗り物の中のアナウンスも、街中に流れている言葉のほとんどが敬語で、とても丁寧な感じがします。パラグアイなどの外国では、ふだんから仲の良い人に話す言葉と初対面の人に話す言葉、お店の人がお客さんに話す言葉、アナウンサーが話す言葉に大きな違いはありません。実際、帰りの飛行機で私よりかなり年上のパラグアイ人が隣に座り、「君の家族は何人いるの?」「仕事は何をしてるの?」という感じでいろいろ話をしました。日本語なら敬語を使わない失礼な会話だったかもしれませんが、海外では普通です。日本は、相手によっていろいろな言葉の使い分けがあり、うまく使いこなさなければ相手に失礼とされる、礼儀を重んじる文化や習慣があり、言葉の種類も多いのだらうと思いました。

## 3.ヒグラシの大合唱に日本を感じ、心和む

三次に帰って最初に感動したことは、ヒグラシの鳴き声が聴こえたことです。「我が家に帰ってきた!」と懐かしい気持ちになりました。以前、パラグアイにもセミはいることをお伝えしましたが、ヒグラシやツクツクボウシの鳴き声は、日本の夏を思い出させる代表的な音だと感じました。あの何とも言えない心地よさ

は、セミの声が作ってくれていたということがわかりました。ちなみに、パラグアイでは「セミの声」とは言わず、「セミの騒音」と表現します。つまり「うるさい音」です。セミの鳴き声を「声」と表現するのも日本らしい感覚かもしれません。

#### 4. トイレットペーパーを流せる快感

日本では当たり前ですが、パラグアイなど多くの外国では、水洗トイレでトイレットペーパーを流すことができません。ペーパーの質が悪く水に溶けにくいので、すぐにトイレがつまってしまうからです。そのため、トイレには必ず使用済みのトイレットペーパーを捨てるゴミ箱が置いてあるのですが、日本に帰ったらそれがありません。日本の感覚が戻るまでは、ちゃんと流れるか不安でしたが、慣れてくると日本のトイレの快適さをとても実感しました。パラグアイにもどったら、毎回トイレがつまる不安と恐怖がまた始まります…。汚い話でごめんなさい。日本のトイレ、最高です！

#### 5. 地震・大雨→避難指示（災害の多い国ならではの迅速な対応）

最近カムチャツカ半島で大きな地震があったり、全国で大雨がふったりして「警報」や「避難指示」が出されることがよくありましたね。日本はとても災害が多い国なので、いろいろな自然

災害に対して対応が早く、住民の備えもすばらしいと思っています。私が日本に滞在している時も「避難指示」が出された地域があり、防災や減災に対する意識がすごいと思いました。パラグアイでは地震もほとんどなく、線状降水帯のようなまとまった雨が降ることはありますが、台風のような強い風が吹くことはありません。そのため、自然災害への対策や教育は、日本ほど進んでいないように思います。以前、パラグアイの人に「日本では災害に備えてお客さんが買いためするので、お店から日用品がなくなることがある。」という話をした時、その人は「災害が起きたらふつうに生活できなくなり、買ったものが役立たないかもしれないのに、どうしてたくさん買っておくの？」と不思議がっていました。災害に対する考え方はかなり違うことがわかりました。

## タイトル写真について

パラグアイのとなりの国、ボリビアのウユニ塩湖の中にはホテルがあり、ふつうに泊まることができます。そのホテルは「塩のホテル」とよばれていて、食事をするレストランのイスや机はすべて塩のブロックでできていました。さすが塩の湖の中に建つホテルですね！

## スペイン語・グアラニー語ひとつ講座

Dónde está el baño? (ドンデ エスタ エル バーニョ?) :  
トイレはどこにありますか?

外出中に困ることと言えば、まずトイレですよね。そんな時には、お店や施設の人にトイレはどこかとたずねてみましょう。やさしく丁寧に教えてくれるはずです。

## 次回について

今回は私が一時帰国で感じた「日本」をまとめてみました。日本を離れる前には何とも感じていなかったことをたくさん感じていることがわかって、自分でも面白かったです。またパラグアイに戻って、「パラグアイらしさ」を感じながら楽しく生活したいと思います。次回の通信では、日本でもおなじみの「あるカフェ」についてお伝えする予定です。

Chao chao ! nos vemos !